

池糠の湿原から劔岳展望の山と日本一の滝  
弥陀ヶ原～室堂～大日岳～称名滝

実施日	2019年8月2日(金)～5日(月)
天候	晴れ
リーダー	涌井 良明
参加者	涌井良明、服部美千代、白石恵美子、渋谷京子、徳山敬子、渡邊悦子、石附智江、中村友子、峯川弘子、宮崎敏男 計10名
費用	高速 7,400円、JR 8,390円、地鉄1,200円、アルペソルート1,800円、宿泊19,800円、入浴600円 合計39,1900円
タイム	8/2 新宿(6:55)富山駅(14:10)地鉄ホテル泊 8/3 電鉄富山駅(6:12)立山駅(7:20～8:20)美女平(8:30～9:00)弥陀ヶ原BS(9:30～40)獅子ヶ鼻下(10:30)獅子ヶ鼻上(11:10)2230休憩(12:35～45)天狗平山荘(13:55～13:50)室堂(14:50)ミクリガ池温泉(15:15)雷鳥荘(15:40)泊 8/4 雷鳥荘(6:55)新室堂乗越(7:56～8:06)室堂乗越(8:20)奥大日岳(10:20～35)七福園(12:30)大日小屋(13:10)泊 8/5 大日小屋(5:40)大日岳(5:55～6:10)下山開始(6:25)大日平山荘(8:50～9:05)牛ノ首(9:45)大日岳登山口(11:36)称名滝(11:50～55)称名滝BS(12:30～13:05)立山駅(13:25～14:56)電鉄富山駅(15:45)

8/2 毎週末に雨を降らせた異常梅雨が明けていきなりやって来た酷暑での夏山になってしまった。殆どトレーニングの山歩きが出来ないで突入したが、案の定暑さに苦しめられた?(単なるサボりだろ!)のような山行になった。

高速で半日かけて前泊の富山に入ったが、経費はJRの老齢割引と1,000円強しか違わなかった、次富山があったらで行こ!

やっぱり暑かった富山駅近くでつましく前夜祭後、早々に?山行に備えて就寝。

8/3 夜行バスでのメンバーと合流後(間に合ってヨカッタ)富山電鉄線で立

山に向けて出発。いかにもローカル線らしい沿線風景と揺れを感じて終着の立山駅へ。予想通りだったとは言え、アルペソルートのチケット売り場は長蛇の列が、弥陀ヶ原へのチケット買うまでに30分程はかかったかも。それでもピストン輸送なので予定20分遅れで美女平へ、室堂直行使は頻繁に出るが途中下車用は時刻表通りで、想定の1時間遅れで出発。は右に左にクネクネと高度を上げて行く、このまま室堂まで乗りたい気分にもなるがそうもいきまい。30分で弥陀ヶ原BSに、先着していたメンバーとご対面してこの日の7名パーティが揃った。仕方ないから、さあ!ガンバって歩くかー!

弥陀ヶ原の木道歩きからカルデラ台地の湿原に伸びた木道を左右の花々に歓迎?されて進み、半周ほど回って獅子ヶ鼻へ向かう。台地(湿原)の切れ目に立ち塞がる山肌が少しずつ近づく、木道から山道になると途端に藪っぽくなって谷(沢)に向かかって下っていく。一本橋で沢を渡り岩と草付きをトラバース気味に進みナメ滝状の沢身に降り立つと、獅子ヶ鼻岩の登り口だ。まあ、鎖の付けられた崖の道で、一枚岩を縫うように鎖場が続く急登だ。湿原歩き後いきなり濡れた岩場を登ることになり、さぼりも加わって一気に疲労が増してくる、まさにヨッコラショ、



ドッコイショとザックと体を持ち上げる、汗もタラタラッと。

やっと登り切って再び木道になるが既に1日分のエネルギーを使い切ったような感じだ。木道に設置された休憩ポイントで一息ついて上の台地からの眺望も楽しむ。さあ元気出してイコー!と思うものの一向にピッチは上がらない、獅子ヶ鼻の登りで今日のエネルギーを使い切ったのか、はたまたソヨとも吹かない風、たんまり湿気を含む真夏の日射しなどの暑さ負けか? 時折聞こえる高原バスのエンジン音にアッ乗って行きてー!

緩い登りを主に木道で進み、高原道路を横断して登り着いた小屋が天狗平山荘



もなかなか見つからずにキツイ歩きだ。岩が多くなってくるとやがて七福園で岩と緑のコントラストが美しいが歩き易いわけではなかった。



この辺りでランチとも思っていたがスペースも無く小屋休止だけ、でもワンプッチで小屋に着きそう。七福園の先で木道になり20分程登った

一が中大日岳で花撮影で気付かずに過ぎた。下り道になって赤屋根が見えるのがぜんカラ元気に。13時過ぎ大日小屋着、行動時間は長くないが今日もなんだかグッタリの疲労感はどうして？、やはり年か？いーえ、山トレ不足でしょ！

さて、大日岳に行くつもりだったが、午後ガスが辺りを覆ってしまい、山頂も隠れてしまったので明日下山前に登ることになればーッ、カンパイ！！

大日小屋は小さめだが、今日は定員目一杯、布団2枚で3人、上向いて寝ると左右が触れてしまうレベルです。だが夕食後小屋番2代目(ギター造職人)の演奏があってほっこりする一時もあって、明日の下山に備えてギッチギチでオヤスミです。夜中に2・3度は足踏んづけられたような！？

8 / 5 日の出前、昨日はガスで見えなかったが正面にオレンジのグラデーションのキャンバスに大きく劔岳がシルエットが！ 見とれてしまった場所にあるねえ！



う、この小屋は良い食事の5時20分頃前劔辺りから顔を出した、今日も夏空のようだ。大日岳をピストンするために予定より早めに小屋を後にする。

直ぐに称名と大日岳の分岐で、ザックデポして山頂へ向かう。朝日を浴びながら20分で山頂へ、石積みに導標のあるそれほど広くない頂だ、大日岳自ら作る影大日？、遙かに存在感のある薬師岳が印象的だ。存分に展望を楽しんでから下山口へ戻る。ここからは間に大日平の湿原を挟み二度の急

下降をして称名川まで標高差1400分を下らなければならない。直ぐに傾斜が増した下りになるが、岩が多いこともあって、以外と足場が難しい道である、山肌にも大小の岩壁が点在しており、名前からその昔は立山同様修験の山であったことが窺えるのかも。

下りの道も様々な花が迎えてくれるが、緊張も強いられる下りでいまいち花を愛でる気持ちの余裕がないのがちょっと悔しい。沢音が近づいて最初の水場を横切る、その後何回か小沢を横切りながら沢筋や沢状の道を急下降していく。決して快適な下り道でなく山慣れなしにしなければかなり辛い道だろう。

後ろには下ってきた大日岳が壁のように立ちのぼるようだが、徐々に傾斜が緩くなって、木道が現れて大日平になっ



てくる。静かに佇む大日平小屋で再び始まるこの後の下りに備えて長めに休憩した。大日小屋からは大日平を縦断するよう木道を辿ってや

がて牛ノ首になると二度目の急下降が始まる、ハシゴを下って滑る易いような下りとハシゴや鎖の道がしばらく続く、もちろん気持ちに余裕が感じられないので何だか辛い下りである。ジグザグを切って下るようになって道は多少歩きやすくなつたものの、標高が下がって暑さが増してそれはそれでやはり辛い。チラッとゴールの道も見えてくるが結局最後までピッチは上がらないまま称名川沿いの大日岳登山口に下山した。

疲れた～あ！が実感！！せったかくなので山道は終わったので、称名滝を見に行くことに。もう沢山と言われる数名にザック番をお願いして日本一の滝を見に行く。称名滝は350分の高さを3段とあって豪快な飛沫を飛ばしていた、イヤッ！ 涼しーッ！！この時ばかりは暑さを全く感じなかった。



これにて今回予定の行程は全て完了。みなさん、おつかれさまでした！計画通り、🚗→お風呂🛀→地鉄🚶の順で富山駅へ。

あーッ ツカレタ！！

(記&写真・涌井 良明)